

[様式 D-1]

2017年2月17日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 喜多悦子 殿

2016年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

活動課題

地域での看取り～切れ目のない地域ケアを目指して～

活動団体名： 園田地区連携会議 そのだ会

活動者（助成申請者）名：西山 裕規

活動報告書

園田地区連携会議そのだ会

(地域での看取り～切れ目のない地域ケアを目指して～)

- I 活動の目的
- II 活動の内容・実施経過
- III 活動の成果
- IV 今後の課題
- V 活動の成果等の公表予定(学会、雑誌)

I.活動の目的

大目的

そのだ会全体の活動として、園田地区における医療・介護・福祉の連携を構築し、住み慣れた園田の場所で、最期まで自分らしく暮らせるように切れ目のない支援(ケア)を提供することを目的とする。

小目的

今回の助成対象の活動では、主に以下の各活動をそれぞれの目的に沿って行う。

- ①園田地域ケアフォーラム: 専門職・地域住民の地域包括ケアに向けた意識向上を目指す。
- ②事例検討会: 困難事例に関して様々な角度(医療・介護・福祉等)から
地域の課題解決を目指し、多職種間の顔の見える連携を構築する。
- ③食支援部会: 最期まで安心して口から食べられるように、知識・技術(嚥下リハ・食事姿勢・
食事形態等)の向上のために講習会を開催しネットワークを構築する。
- ④特別フォーラム: 海外の事例を参考・比較することにより、在宅・地域での看取りに対する
専門職の理解を深め、切れ目のないケアに向けた課題を明らかにし、
課題解決のために必要な支援・連携へのヒントを得る。
- ⑤世話人会議、食支援会議: ①～④の活動を円滑に行うために、会議を適宜開催する。

II. 活動の内容・実施経過

①園田地域ケアフォーラム

第7回 園田地域ケアフォーラム

日時: 平成28年7月30日(土)14:00～16:00

会場: ハーティ21 ハーティホール

講演: 「自信をもって精神障害者とかがわる」—地域生活支援のなかで—

大西 次郎氏(教授、大阪市立大学大学院生活科学研究科、総合福祉・心理臨床科学講座)

内容: 精神障害者への支援を長年行ってこられた大西次郎氏を招き、

ケアに活かす精神疾患の基礎知識を学びながら、精神障害者への支援について学ぶ。

②事例検討会

第10回事例検討会

日時:平成28年10月13日(木)18:30~20:00

場所:はくほう会セントラル病院 職員食堂

内容:精神疾患患者の対応困難事例

事例提供者:①榎本 毅氏(精神保健福祉士/元尼崎市保健センター)

②アダンクリニック院長 赤嶺 秀明医師

③相談コーナー「なんでもいいよ(言い・良い)」

内容:ケアフォーラムの内容を踏まえ、ソーシャルワーカーと医師を招き、

尼崎市における精神障害者の支援について学ぶ。

相談コーナーにおいては、普段の支援の中で、疑問や相談したいことを共有した。

第11回事例検討会

日時:平成29年1月26日(木)18:30~19:30

会場:はくほう会セントラル病院 中央棟2階 職員食堂

内容:①高齢者だらけ・障がい者だらけの刑務所を訪問して

②「味彩食」配食サービスを始めました!

内容:世話人の中村大蔵氏が、刑務所における高齢者・障害者の増加の問題を提起。

また、けま喜楽苑で高齢者向けソフト食の配食サービスが始まり、内容と情報共有を行う。

③食支援部会

食☆よろず塾 講習会

「食べるため、食べ続けるための食支援」

～最期まで口から食べることができる地域づくり in そのだ～

日時:2017年1月21日(土)13:30~17:00

会場:園田公民館2Fホール

講師:川端恵里(けま喜楽苑 言語聴覚士)小野啓介(園田病院 言語聴覚士)

齋藤知子(村内歯科医院 歯科医師)峠口いずみ(阪神医療生活協同組合 言語聴覚士)

川端重樹(はくほう会セントラル病院 理学療法士)高橋由希子(園田苑 管理栄養士)

村内光一(村内歯科医院 院長)

内容:園田地区における多職種の特任職の視点から、

「いつまでも安全で美味しく食事を楽しむ支援」について学ぶ。

【講義】・摂食嚥下のしくみ・高齢者の嚥下の特徴・誤嚥のサイン・食事形態の工夫・事例紹介 など

【演習】・食事介助のコツ・食事姿勢ポジショニング・食事環境設定 など 実技講座

【グループワーク】日頃のお悩みや疑問を意見交換

④特別フォーラム

「こころ豊かに死をむかえる地域へ」～タイ・イギリスの看取りから考える～

日時：平成28年10月25日(火) 18:00～20:30

場所：アルカニックホール・ミニ(玉翔の間)

座長 西山 裕規 氏(世話人/NPO 法人愛逢 愛逢の家 管理者)

仲川 八千代 氏(世話人/はくほう会セントラル病院 看護部長)

◇第一部 講演

古山 裕基 氏(タイ)、ルイス智子 氏(イギリス)

◇第二部 パネルディスカッション

中林 弘明 氏(日本介護支援専門員協会副会長/株式会社シルバージャパン代表取締役)

古山 裕基 氏、ルイス智子 氏

内容:日本とタイで看取りの場づくりを行っている古山氏とイギリスで緩和ケアナースとして活動している

智子氏を招き、日本の現状を交えながら、日本・タイ・イギリスの看取りのあり方、支援について学ぶ。

⑤その他

世話人会議:5回実施(2016年:8/25,9/6,10/13,11/17、2017年:1/26)

食支援会議:7回実施(2016年:7/21,9/1,10/6,10/27,11/24、2017年:1/6,2/9)

Ⅲ. 活動の成果

①園田地域ケアフォーラム

参加者 88名(アンケート未実施)

1. 職種	
医師	3
歯科医師	1
薬剤師	0
看護師・准看護師	9
理学療法士	8
作業療法士	0
言語聴覚士	3
社会福祉士	8
介護福祉士	5
介護士・ヘルパー	3
主任介護支援専門員・介護支援専門員	26
事務員	0
管理栄養士・栄養士	0
歯科衛生士	0
その他	16
回答なし	6

成果：地域包括ケアではとりあげにくい精神障害者がテーマであったが、参加者がケアマネの26名を筆頭に、看護師、相談員、介護職、保健師等、精神障害者の支援を行っている専門職の参加が目立った。

②事例検討会

第10回事例検討会

アンケート結果{参加者30名中、25名回答(回収83%)}

1. 職種をお尋ねいたします。	
医師	1
歯科医師	3
薬剤師	0
看護師・准看護師	5
理学療法士	2
作業療法士	0
言語聴覚士	1
社会福祉士	3
介護福祉士	2
介護士・ヘルパー	0
主任介護支援専門員・介護支援専門員	4
事務員	1
管理栄養士・栄養士	0
歯科衛生士	0
その他	2
回答なし	1
2. 本日の内容はいかがでしたか。	
大変良い	12
良い	13
悪い	0
大変悪い	0
回答なし	0

3. 本日の内容で良かった点、悪かった点などご感想をご記入ください。

1

精神科の先生のお話しが内化できず。

2

現場で活躍されているca. Drの教の知れず。

3

お話しのお話の話を聴くよりも多の方に聞いて欲しいと

△後 〆事務局より研修内容を〆記して下さい。

思います。

4

仲々聞けたい話かきけ良かった。

5

あれ、話が聞けた。時間をかけられない。
聞けない

6

精神的なことが聞けた。

赤嶺先生の話を聞いて学ぶことができた。

7

精神科についてよくわからないことがあったので、今日の話を聞いて少しわかった気がする。

8

精神のことがよくわかった。私の勉強不足のせいかもしれない。

9

相談支援、医療的目線から、二つの視点で話しを聞いてよかった。

精神障害の基本的なことから、地域の人的資源について知る機会が大切と感じました。

10

精神科のDrの考え方がよくわかった。

11

精神科について誤解している事が多いと思い、赤嶺先生の話を聞いて
よくわかった。

第 11 回事例検討会

アンケート結果 参加者16名中、9名回答(回収率56%)

1. 職種をお尋ねいたします。	
医師	0
歯科医師	2
薬剤師	0
看護師・准看護師	2
理学療法士	2
作業療法士	0
言語聴覚士	2
社会福祉士	0
介護福祉士	1
介護士・ヘルパー	0
主任介護支援専門員・介護支援専門員	0
事務員	0
管理栄養士・栄養士	0
歯科衛生士	0
その他	0
回答なし	0
3. 本日の内容はいかがでしたか。	
大変良い	5
良い	4
悪い	0
大変悪い	0
回答なし	0

6. 本日の内容で良かった点、悪かった点などご感想をご記入ください。

1

初めての参加させて頂きました。自分の知らない世界を知れて
良いです。

2

お礼のメールが届きました。

刑務所の 実態を知り 感動しました。

3	・ 便秘
4	普段、聞けない、考えない刑務所の現場も聞いて良かったです。当轄、支援者の立場で考えていきたいです。味新食、期待しています。
5	普段知る事のできる刑務所の現象を、今まで考えた事か「良かった」といふ事か、いかに出所し、生活を送る上で必要な事は何か。今後、ご希望される研修内容をご記入下さい。 学ぶ機会と「へ」。
6	刑務所での高齢化について考えたことなど、大変お話しありがとうございました。

成果：アンケートより、地域における精神障害者の話や、刑務所における高齢者・障害者の課題に触れ、事例検討会が、各専門職の知見を広げる機会になることが分かった。また、ソフト食に特化した配食サービスの提供など、事業所ならではの支援を紹介し合える機会にもなり、顔の見える連携を構築できるきっかけとなった。

③食支援部会

参加者：75名（内訳：歯科衛生士：35名、介護職：14名、看護師：4名、言語聴覚士4名、
 栄養士・管理栄養士：3名介護支援専門員：3名、理学療法士：2、
 その他：10名（医療ソーシャルワーカー、施設長、相談員、包括支援センター職員等）

アンケートの感想より

- 1.本日の講習会であなたはどんなことを学ぶことができましたか
 - ・食事で拒否のある方の介入方法は、口腔ケアで拒否があるか他人も通じるものがあると思った（DH）
 - ・個人のペースを大切にする、楽しく食べられる食支援の大切さ（Ns, DH 他）
 - ・特別なテクニックがなくても支援できるということ（介護福祉士）
 - ・姿勢の大切さ（DH, ST）・「食べない」ことの原因は様々で、その理由を見つけることが大切（管理栄養士）
 - ・他職種の話聞いて勉強になった（DH）・現在の支援方法を見直す機会ができた（ST）
 - ・食支援の大切さ（DH）・介助される側の気持ち（DH, ST）・食や嚥下について（介護福祉士）
 - ・その人らしさを引き出す支援（Ns）・VFの動画で嚥下の理解ができ、イメージができるようになった（Ns）
 - ・生活全般を見据えて支援するという内容が心に響いた（Ns）
 - ・地域で頼りになる方が大勢いるということ（介護福祉士）・可能性を追求する大切さ（介護支援専門員）
 - ・教科書通りにしないこと（社会福祉士）
- 2.本日の講習会の内容を、今後の仕事にどのように取り入れますか
 - ・患者一人一人に合った食形態・姿勢などの食支援をしていきたい（Ns）・口腔ケア時に（DH）

- ・職場に得た知識を広げたい(DH,介護福祉士)・うがいの時の、介助の仕方や首の角度(DH)
- ・高齢者に接するとき(DH)・姿勢や疾患にも注意をしていきたい(管理栄養士、DH)
- ・退院時に患者が安全に食事できるように説明していきたい(生活相談員)
- ・優しさや思いやりのある食事介助(ST)・地域での他職種連携の参考(DH)
- ・食べることや食べさせることに困っている方へのアドバイス(DH,Ns)
- ・食事を楽しんでいるかで評価しようと思います(ST)
- ・他職種に相談していきたい、連携をお願いしたい(社会福祉士)
- ・個々の患者の嚥下障害の具体的観察項目を共有し、ケアに活かす。トロミの付け方(Ns)
- ・利用者への姿勢や介助方法の見直し(介護支援専門員)・月に一度行っているミールラウンド(DH)
- ・姿勢調整(ST)・具体的な情報提供ができる(Ns)
- ・機能訓練ばかりに目を向けるのではなく、食事とはどういったものかという視点で嚥下の評価訓練を行いたい(ST)・介助する際、優しい気持ちで行いたい(PT)
- ・困ったときは相談したい(介護支援専門員)

3. 今後、実施してほしい内容やテーマがあれば教えてください

- ・認知症患者への食支援の進め方(Ns)
- ・具体的な症例と、そのアプローチの仕方(DH)
- ・グループワークで他職種にアプローチなどを詳しく聞きたい(DH)
- ・嚥下調整食(各病院や施設で提供している食事や名称を知りたい)(管理栄養士)
- ・嚥下リハビリテーション(生活相談員)・食前の体操、姿勢の作り方を詳しく知りたい(ST)
- ・ポジション、PTによる研修(DH)・コミュニケーションの取り方(ヘルパー)・口腔ケア(DH)
- ・栄養・リハビリ(DH)・NSTの作り方(Ns)・誤嚥のサインがわかる内容(PT)
- ・在宅の高齢者の食支援の事例検討(ST)・認知症(介護福祉士)

成果：講習会を通して、園田地区における多くの職種の方が食支援について話し合うことで、各職種の専門性や援助に対する思いを共有することにより互いの理解が深められた。また、“食べる”ことに支援を行っている利用者に問題が生じた時には、どこに相談すれば良いのかが明確にされた。

④特別フォーラム

アンケート結果(参加者40名中、31名が回答。回収率78%)

1. 職種をお尋ねいたします。	
医師	1
歯科医師	0
薬剤師	1
看護師・准看護師	10
理学療法士	1
作業療法士	0
言語聴覚士	1

社会福祉士	6
介護福祉士	1
ヘルパー	1
主任介護支援専門員・介護支援専門員	6
栄養士・管理栄養士	0
歯科衛生士	0
その他	3
回答なし	0

2. 本日の内容はいかがでしたか。	
大変良い	12
良い	16
悪い	0
大変悪い	0
回答なし	3

3. 本日の内容で良かった点、悪かった点などご感想をご記入ください。

1

タイの生活がよくなった。家族を大切にすることは日本でも復活させたいと思う。
 イギリスの物価の高さは驚愕だ。介護福祉士を学んでいた。うらやましいと感じた。
 今後、ご希望される研修内容をご記入下さい。オーストラリアの介護士と訪問看護士は
 チームとして働く事は日本でも採用
 実施出来たらいい。

2

日頃 聴くことが出来ないお話をきかせて戴き大変良かったです。
 タイやイギリスのみならず、諸国の状況など勉強
 たいです。
 後、ご希望される研修内容をご記入下さい

3

「本人から」という視点を教えられることがあった。

4

環境の看護について、他国の現状を知ることが、文化の違いも大きいと思われ、日本の看護の
病院の状況は、日本の医療の進歩の結果だと思われ、本人のQOLを考えた看護が、適切な支援と今の
語を勉強してみたいと思われ。
今後、ご希望される研修内容をご記入下さい。

5

それぞれの国の死生観、宗教観が、大きく異なっている~~の~~^と
改めて感じました。

6

各国の違いにかいよくわかり良かったと思います。
どの国も家族の形は同じで同じように小遣いを持っている人だと思
いまして。
今後、ご希望される研修内容をご記入下さい。

7

3ヶ国の違いを聞くことが、死に関し、在宅・医療・福祉の連携について
聞くことができて勉強になりました。

8

パワーポイントの書き方

9

外、代りでの看取り、自分の死について知ることが出来て良かった
自分の死についての物語を語る機会と知った。希望は心でコリと死にたいと思っ

10

他国のターミナルケアの仕組みが、とてもよかったです。
どの国にしても自分達の終末を向かい合うための仕組みは、
費用負担があり、多くの病院での
終末ケア。
今後、ご希望される研修内容をご記入下さい。

11

イギリスの制度も、^{生活と}自然の流れ
合理的で、^{自然の流れ}
イギリスのキリスト教は、^{キリスト教}南の文化で、^{自然の流れ}直線的な
ご希望される研修内容をご記入下さい。

12 日本人の少くも避けられるべきところ、必ず異なる
文化の存在があること、これから学ぶべき

13 豊の町内容で心にしめる話でした。悪かった点：専断が少なくて
今後、ご希望される研修内容をご記入下さい。 もったいないから

14 翻訳について、知識の国の利点、考慮すべき点、
また今後、この研修会への参加を促すことについて

15 知識の国のシステムと文化とを是非と入れてもらう。特に、日本の介護について
考慮の機会をもっとつくって欲しいと思いました。

16 各国の文化、文化の違い、異文化の理解を
深めることが、これです。

17 海外の状況と同様。知識の国と国内の
文化の違いが、これです。

18 タイは文化の影響の死に受け入れの取組が、
イギリス。現実的には、システムも異なる

19 タイ、英国の介護、医療の状況を知らせて。両国の違いを取り組むべきことを考えます。

成果：タイの死を寛容に受け入れていく姿勢(死生観)と、イギリスのゆりかごから墓場までという国民一人ひとりのニーズを誕生から最期まで叶えていくケアや仕組みなど、日本における今後の看取りのあり方、地域包括ケアの方向性を参加者で共有することができた。

IV. 今後の課題

①園田地域ケアフォーラム

市報などにも広報しているが、地域住民の方の参加者が少ない。今後地域包括ケアを進めていく中で、地域住民の理解と参加が必要になってくると考えられるが、地域住民の人に関心を持ってもらえるテーマを選びながら、フォーラムなどを活用して地域の方達に“そのだ会”の存在を知ってもらえるよう、啓発していく必要がある。

②事例検討会

精神障害者や刑務所における高齢者・障害者の問題の内容であったが、初めてその実情を知る専門職も少なくなかった。家族も含め社会的弱者に対する支援がいかに脆弱であるかが示唆されたが、事例検討を通して各専門職それぞれの支援について共有し、支援に困った時に相談・連携できる関係性を構築していく必要がある。

③食支援部会

基本的な食支援のあり方・方法について学ぶことができたが、具体的に食材をどのように調理すればよいのかという実習が必要である。またコンビニ等で簡単に手に入れることのできる食材を、短時間で嚥下食にする方法なども 家族やヘルパーに対して講習することによって現場の負担を減らす取り組みも行いたい。

④特別フォーラム

日本・タイ・イギリスを比較することによって、国の特性や支援によって看取りのあり方が違うことを学んだが、地域住民に、看取りについて考えてもらう機会をつくと共に、園田地区において、地域資源や不足している支援・資源は何かなどの情報を収集・共有する必要がある。

⑤全体

フォーラム、事例検討会などの参加者は基本的には専門職が中心で、地域住民の地域包括ケアへの関心は低いと思われる。地域での看取りを行っていくには、2025年、団塊の世代が75歳を迎えるまでに、専門職主体の地域包括ケアではなく、地域住民主体(視点)の地域包括ケアを構築する必要があると考える。そのためには、そのだ会が園田地区における住民と支援をつなげるパイプ役となり、医療・福祉・介護及び事業所(法人)の垣根を越えた切れ目のない連携を目指し、今後もフォーラムや食支援の部会など地域のニーズに合わせた活動を積み重ねていきたい。

V. 活動の成果等の公表予定(学会、雑誌)

特になし